

Case Study

支部ケース・スタディ

東海支部

コミチャンのデータ放送で聴取できる「テレビでラジオ」

ひまわりネットワーク(株)

メディアサービス部GL

岩田 伸治



クリアな音質のFMラジオ放送がテレビで聴ける！

愛知県豊田市、みよし市、長久手市をサービスエリアとするひまわりネットワークでは、2018年2月1日より、データ放送でFMラジオ放送が聴ける新サービス「テレビでラジオ」をスタートしました。その目的はコミュニティチャンネルの接触を増やしたいという思いと、競合他社にはマネの出来ない差別化できるサービスの創出でした。

弊社のデータ放送は、これまで暮らしに役立つ情報を視聴者に提供してきました。交通情報は渋滞や事故・規制に加え、主要力所に設けた18台のライブカメラの画像。またコミュニティバスの運行も最寄りのバス停を登録しておけば、発着時刻を簡単に知ることができます。そのほかエリア内の河川情報も水位やリアルタイムの画像が確認でき、行政と連携した防災情報・緊急情報など、暮らしの中で必要とされる情報をお伝えすることもコミチャンの役割だと感じています。

ケーブルテレビ視聴者はスマホやパソコンに不慣れな高齢の方も多いため、普段から使い慣れているテレビから簡単に情報が得られるデータ放送はうってつけのサービスでした。



FM各社を招いて開催した記念式典(2018年2月)



弊社代表取締役社長 小野哲彦(中央)

【データ放送画面例】



道路カメラ



河川水位



コミュニティバス



コミュニティバス時刻表

難聴ラジオを家の中でクリアに聴取

クルマのまちで知られる豊田市ですが、市街地を離れると長野県境に繋がる山間地域が広がります。その全域にケーブルを敷設していることが今回のデータ放送を活用したラジオ再放送を検討するきっかけになりました。

エリア内のラジオ放送局は、FM局が3社、AM局が2社、それにNHK(FM・AM)、コミュニティFMがあり、合計7社9チャンネル(図1参照)。

弊社では主要FM放送の7チャンネル(サービス開始時は8チャンネル)の再放送をスタートさせました。

図1 エリア内のラジオ局

FM放送	
ZIP-FM	77.8MHz
レディオキューブFM三重	78.9MHz
FM AICHI	80.7MHz
NHK-FM	82.5MHz
AM放送/ワイドFM	
NHK愛知第1	729MHz
NHK愛知第2	909MHz
CBCラジオ	1053MHz/93.7MHz
東海ラジオ	1332MHz/92.9MHz
コミュニティFM放送	
ラジオラフィート	78.6MHz

日本で初めてラジオ放送が開始されたのは1925年。まもなく100年の歴史を誇るメディアですが、ラジオ放送の聴取は減少傾向にあります。以前はどここの家庭にもあったステレオコンポやラジカセは姿を消しました。都心ではビルなど建築物による遮へい、山間地域では主に地形による遮へい、またAMラジオは外国からの周波数混信を受けやすいなど、家の中でラジオ放送を聴くのは困難な状況です。

東海地方をエリアとした東海ラジオとCBCラジオは、国が難聴対策や災害対策のために実施したワイドFM(FM補完放送)化を2015年10月1日より始めるなど、対策を講じました。

スマホの普及で若い人たちのテレビ離れ、ラジオ離れが問題となっています。しかし、ラジオ放送のニーズは意外に我々ケーブルテレビの加入者層に合っているのではないかと感じています。40代以上の方は若い頃にラジオの深夜放送を聴いたり、週末のヒットチャートをエアチェックしたりと、ラジオはとても身近な存在でした。

ケーブルテレビのインフラと身近なテレビで、クリアな音質のFMラジオ放送を届けることはケーブル加入者に有効なサービスだと考えたのです。

FM局の理解がサービスの実現に

「テレビでラジオ」の構想を始めたのは2016年10月。当時、2つの大きな課題がありました。1つ目はデータ放送でラジオを再放送するための帯域の確保。弊社の地デジコミチャンはメインとサブのHD2チャンネルとデータ放送で構成しています。そこに8局のFM放送(現在は7局)を挿入するわけですが、トータルでおよそ1Mbpsを割り当てなければなりません。帯域の上限が決められている中、メインであるコミチャンのビットレートを落とすことを議論して何度も検証を行いました。

2つ目はラジオ局へ再放送の同意許諾を得ることでした。民放FM、NHK-FMに何度も足を運び、ケーブルテレビとの共存にどんなメリットがあるのかを説明しました。

その結果、すべてのラジオ局に同意をいただくことができました。

お客様もラジオ局もケーブル局もうれしい

ラジオの難聴対策として国が始めたワイドFM(FM補完放送)や、我々がRF信号に変換して再放送するFM放送は、専用のチューナーが必須です。しかし、データ放送ラジオはケーブルテレビに加入していれば、コミチャンのデータ放送が利用できる全てのテレビがラジオチューナー代わりになるのです。しかも小型ラジオに比べ高音質です。ケーブルテレビと組むことで、FM局は一気に何万台というラジオ端末を手に入れたことになり、聴取機会がぐんと増えます。

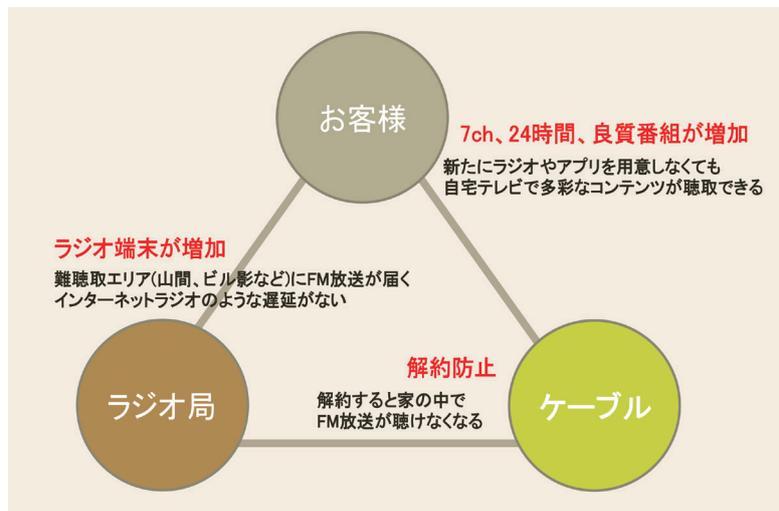
そして山間地域などの難聴取エリアにおいても、ケーブルによる伝送のため雑音のないクリアな音質が届けられるのです。また、インターネットラジオのような遅延のない放送が提供できます。

ケーブルテレビ加入者は、ラジオを聴くために余分なお金を支払うことなく、これまで家の中で受信し辛かったFM放送を24時間聴くことができます。しかも普段から使っているテレビのリモコンで操作も簡単です。

ケーブル局は、競合他社にマネの出来ないサービスの追加でテレビの魅力が増し、解約防止に繋がります。そして、お客様がコミチャンを選択する習慣がつくことで、これまで訴求できなかった自主制作番組を知っていただくきっかけになるのです。

「テレビでラジオ」はまさに三方良しを実現したサービスでした(図2参照)。

図2 <お客様もラジオ局もケーブル局もうれしい>三方良しのイメージ



簡単だからいい

弊社ではこれまでもケーブルテレビ双方向を利用した「テレビポータル」など、STBの機能を活用したサービスを展開してきました。これらは使ってみると便利なサービスなのですが、一部のお客様を除き、特に高齢の方には操作が難しく感じられるようで受け入れられませんでした。

その反省を活かした「テレビでラジオ」は、操作を簡単にすることがお客様に受け入れられました。

ラジオチューナーにおいても、多くはボタンを押したりダイヤルを回して周波数を合わせますが、「どの局がどこだっけ?」と迷ってしまいますよね。その点、「テレビでラジオ」は放送局名と周波数が表示されたボタンをリモコンで選ぶだけというのも特長です。



テレビでラジオ画面



利用シーン

地域に根付いた情報をテレビとラジオで提供

サービス開始後、たくさんのお客様から喜びの声が寄せられています。これまで家の中でラジオが聴けなかった山間部の方は、テレビから流れるクリアなラジオ放送に感動されているそうです。今回の取り組みでラジオ局との関係も深めることができました。現在ではCNCIグループ5社でこのサービスを提供しています。

さまざまなメディアから情報を得られるいま、その地域に特化した情報をテレビから得られるというのは素晴らしいことです。

今後はケーブルテレビとラジオ局で共同プロモーションや共同事業などにも繋げていきたいと考えています。「テレビでラジオ」が、ケーブルテレビの価値を高め、お客様の利便性向上になると確信しています。